

いわき地区

いわき地区では、3月11日の地震の直接被害及び沿岸部全域の津波被害によって、会員企業や社員宅の半壊・全壊被害が多数出ました。さらに、震災直後に発生した福島第一原発事故によって、一時避難でいわきを離れた方もおりましたが、219名(当時)の会員が全員の安否確認を早い段階で行いました。いわき事務所の機能を復旧させた後は、全会員へ向け、地区会長メッセージを発信。日々寄せられる会員からの経営相談やお困りごと相談に対しては、地区三役や専門委員会が即時に対応してまいりました。また、国の助成金等を使った雇用維持の方法説明会を計3回実施しました。

4月に入り、震災後初めての地区例会を開催。また、この頃から他地区の会員はもちろんだが、東京同友会等、全国の仲間からの支援物資の供給や訪問も相次いだことから、いわき地区会員の元気な姿を「元気通信」や「e.doyu」といったWeb媒体を通じて発信するようになり、5月には、震災によって延期されていた地区総会が開催され、「勇気と希望を持ってがんばろう!いわき」いわき地区会員が「丸となって大震災を乗り越え、いわきから元気を発信しよう!」のスローガンの下、今年度の地区活動を震災復興に重点を置くことに決定しました。

その後は、研究グループ会、専門委員会といった通常地区活動も継り交ぜながら、同友会が持つネットワークをフル活用し、企業存続・地域再生の方策を皆で考える場づくりを心掛けています。

最近では、震災後半の節目に中間協議・他団体・マスコミ等にいわき訪問取材も相次いでお

「福島の再生なくして日本の再生なし」

震災からの復興に向けて

後編 (各地区活動レポート)

世界が注目している福島の再生は、地元の中小企業一社一社の手にかかっています。福島同友会には、そのために出来ること、やらなければならないことがあります。県内10地区それぞれに震災の影響が異なる中、それぞれが3つの目的に沿って、企業経営の糧となる活動を創意工夫して展開しています。各地区活動の様子レポート(後編)です。

郡山地区

郡山地区では、東日本大震災により地区会員企業45社が全壊・半壊の直接被害を受けました。震災後はグループ長が中心となり、それぞれのグループ会メンバーの現況把握を行いました。企業存続や復興のためには何が必要で、今何が求められているかを第一に考え、4月には経営サポート室により「雇用・資金繰り」対応についてのセミナーを開催しました。また、地区総会・4月例会では、約200名が集まりそれぞれの現況報告を行い、1社も欠けることなく困難を乗り越えていこうと決意を確認しました。

9月には、「社員・家族の為に、また会員同士の繋がりや地域に仲間&元気の輪を広げる」ことを目的に同友会まつりを開催。当日は約2,300名の方が来場し成功裏に終えることができました。このような活動の中「地域の皆さんと触れ合うこ



▲4月に開催された地区総会

りでしたが、こういった外部からの客観的視点のご意見・ご指摘も今後の活動に活かしていきたいと思えます。また、東京電による原発事故の本賠償が具体的に始まりましたが、地区としては会員各位に不利な事とならないように、本賠償請求に関わる正確な情報提供及び説明会を開催しました。

震災からの復興への道のりは長く険しいものになると思いますが、しかし、必ず訪れるその時を見据えた活動をこれからも一つずつ、取り組んで参りたいと思えます。

(レポート)
いわき地区専務理事
高崎文季

須賀川地区

須賀川市では、震度6強の強い揺れにより、市庁舎を始め多くの建物が倒壊または、使用できない状況になりました。地震直後の混乱状況は、他の地域と同じ状況でしたが、やはり市庁舎が使えないことによる、マイナスイメージが広がりました。また、放射能による被害が広がる中で、果の復興ビジョンへの意見交換をし、果への意見を出すなど、政策に関しても積極的に取り組んでいます。

須賀川地区は、震災に加えて台風15号による水害でも、大

あだたら地区

あだたら地区では、東日本大震災の影響で予定していた会合を全て延期せざるを得ない状況になり、会員間の安否確認や情報収集で月日が去って行きました。

地区内の会員で被害状況はそれぞれ違いましたが、経営者に与えたダメージは同じだと思えます。しかし何より、震災後同友会すべての行事が無くなってしまったため、会員同士顔を合わせる機会がなくなってしまったことに対する不安の声が日に日に地区内でもどんどん高まりました。とにかく早く会合を開き、お互いが元気な顔を合わせたい、動かし合える場が必要だと、4月1日(金)緊急例会を開催しました。多くの会員に参加いただき、参加して良かった

会津地区

今年度は、会長をはじめ、三役、理事の交代があり、本格的に活動が始まったのが5月の例会からでした。

震災による建物の崩壊などは、最小限で済みましたが、福島原発からの放射能の影響や風評被害の観光会津に大打撃をもたらしました。代表する会津鶴岡城、飯盛山では、開店休業状態のお店や閉店しているお店など、散々たるものでした。

市や各種団体、会議所等、復興イベントに参加したり、開催したり、あの手この手を使って、一人でも多くの観光客に来て頂くよう努めました。一向に戻りませんでした。

唯一、被災者を受け入れた東山温泉やその近隣のお店では売上増もありましたが、被災者受け入れの恩恵を受けているのはごく一部でした。

会津地区では、昨年から準備をしてきました、第2回会津農商工職字フェアを予定通り7月に開催しました。今回は、復興を祈念し、特別なイベントとなりました。

又、毎年11月に開催している市長懇談会では、風評被害に負けない御作りの提言をしていきます。

地区として出来ることを、ひ



▲会津農商工職字フェアでの集合写真



▲震災後初めて顔を合わせた4月1日緊急例会



▲地区会員への会長メッセージ



▲震災後、初めて揃って集った4月例会

とつひとつ取り組んで行くことによって、観光会津の再生に努めていきます

貢献していくことが、企業の大勢につながるという想いで、大震災からの復興に尽力していきます。

(あだたら地区会長)
朝光製作所 阿部佳文